

R6年度 学校教育目標「挑戦 つながる笑顔 丹那の子」

経営のCONCEPT「丹那を学び 丹那のよさを知り 丹那とともにある学校」



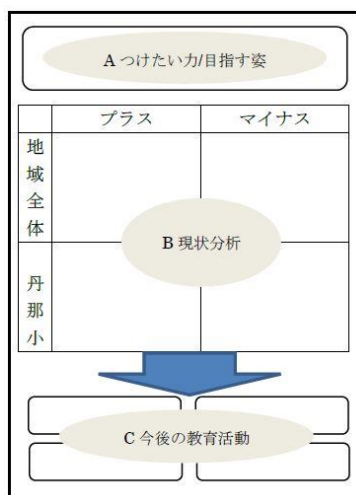
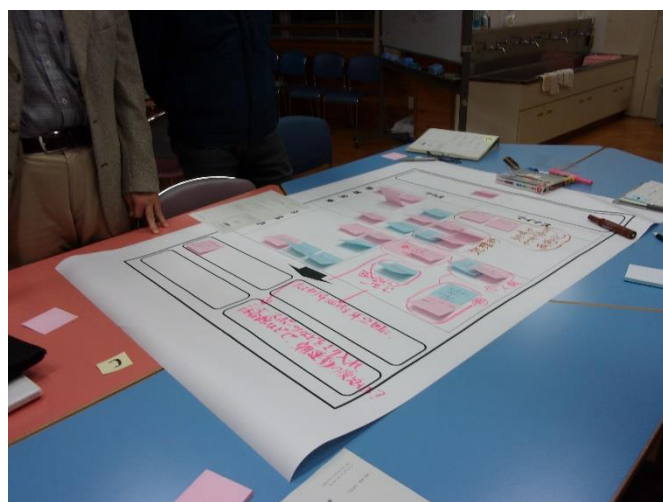
CS オール丹那

函南町立丹那小学校
令和6年12月発行

丹那で育てたい子どもの姿とは

11月27日（水）第3回のCSオール丹那会議がおこなわれました。令和7年度丹那小教育課程について、「丹那小のこれからの目指す力」をテーマに討議をしました。保護者や地域の方の力を借りて教育活動が行われている現状から、これからの丹那を担う子供たちを地域で育てていくための方向や取組について話し合いました。

小学校や地域の実態を、プラス面とマイナス面に分類し、丹那の子供たちにつけたい力を分析します。また、そのためにどのような取組ができるかを考えました。



◀ 分析シートを使って、地域や学校の実態を分析しました。



【CS オール丹那運動会における丹那で育てたい子供の姿（案）】

願う子供の姿	○集団生活に馴染める子 ○失敗を恐れず挑戦できる子 ○力強い子どもたち ○丹那小で学んだ力を発揮する力	
学校や地域の現状分析	プラス面	マイナス面
	○素直な子供が多い ○優しい子供が多い ○全校の子がわかる ○一人一人の子に、しっかり目が行き届いている ○思いやりがある ○保護者、地域の方との関わりが多い ○豊かな自然環境 ○安心感がある人間関係 ○行事を通して関わりをもてる	・人数が少ない（子供も大人も） ・運動能力が低い ・保護者同士の関わりが減っている ・視野が狭い ・固定化された人間関係 ・大規模に慣れていない ・恵まれた環境を自覚していない ・競争意識が低い ・遊びの種類が少ない ・趣味がない ・同じような価値観で育っている ・新しいものに挑戦できる力が弱い ・人を信用しすぎる
今後の取組案	◎他校との交流（小学校、中学校、三島坂小、桑村小、大規模校と） ◎地域との交流（小学校へ足を運んでもらえるように） ◎地域の方との協働行事 （収穫祭、奉仕作業 様々な方との交流により、コミュニケーション力が高まる） ◎あえて失敗の経験をさせて、大人は手を出さない ◎行事（玄岳遠足の継続）人とのつながり ◎縦割りグループ編成を年に2回にしていく ◎スポーツに関わる機会を増やしていく 朝運動の復活 ◎あいさつ運動（地域ぐるみで） ◎丹那ならではの経験を積む ◎地域、教員が自信をもたせるための声掛けを行っていこう	

地域の実態を踏まえたご意見ありがとうございました。令和7年度教育課程を編成していくうえでの、参考とさせていただきます。



11月8日（金）2・3年生が三島市立坂小学校との交流をおこないました。坂小学校の同級生と楽しい時間を過ごしました。7年度は坂小の子供が丹那小を訪問する予定です。